



いとう  
伊藤 おさむの議員レポート

# ホット・ホット・越谷

平成 25 年 7 月 発行 No.34

TEL 048-985-4826

E-mail osamuchan@ae.wakwak.com

〒343-0841 越谷市蒲生東町 8 番 37 号

FAX 048-989-2397

URL <http://www.starosamuchan.com/>

## 高齢者に笑顔を！ 子どもたちに夢を！ 地域に活力を！

去る 5 月 27 日、越谷市役所庁議室において越谷市永年議員顕彰式が行われました。

この表彰は、越谷市議会議員となってから 10 年目を迎える議員に対し、越谷市議会議員の顕彰等に関する規則に基づき表彰されるものです。

今回の顕彰式では、私の他、4 名の議員が表彰されましたが、この 10 年の間、同期であり同志でもある故島田勝三議員をはじめとする多くの方々と出会えたことは、私にとって最高の財産になるものと考えております。

今後は、初心を忘れずに驕り高ぶることなく、住民福祉の増進を目指し常に是々非々の考えを貫き、議会で発言してまいりたいと思いますので、市民の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。



## 持論

とある議会が閉会を迎えた。その議会では、新たな正副議長や各委員会の正副委員長などの人事が行われたが、懸案であった議会選出の監査委員が最後まで決まらず、一年間続いた条例違反という異常な状態がさらに続く形となった。

その要因は、会派間の考え方の違いと、譲ることのできる者と譲ることのできない者とのレベルの違いではないかと考えられる。

議員の中には、監査の勉強のため夜中まで熱心に控室で鉛筆を動かしている議員もいれば、他方、選挙で当選してから二年間、常任委員会でも一度も発言をしていない議員、或いは開かれた議会と称し、明らかに間違っていたことをブログや会報で堂々と発信している議員など、議員としての次元の違いが歴然としてくる状況は否めない。

議会が正常化するためには、議員一人一人が以上に切磋琢磨し、レベルアップを図ることが重要なのではないだろうか。

# 越谷市議会6月定例会報告！

6 月 3 日から 6 月 19 日までの 17 日間にわたり越谷市議会 6 月定例会が開催され、市長提出議案 14 件が原案の通り可決されました。

その主なものは、人権擁護委員候補者の推薦の議案が 1 件、財産の取得や越谷市地区センター設置及び管理条例の一部を改正する条例制定など一般議案が 12 件、補正予算が 1 件の全 14 件の市長提出議案が可決されました。

## 新たに正副議長が誕生！！

6 月定例会初日(6 月 3 日)、正副議長の選挙が行われ、議長に金井直樹議員(自民党市民クラブ)、副議長に岡野英美議員(公明党越谷市議団)がそれぞれ誕生しました。選挙の結果は次の通り。

議長選挙	金井直樹 議員	16 票	副議長選挙	岡野英美 議員	16 票
	玉生芳明 議員	13 票		菊地貴光 議員	14 票
	金子正江 議員	2 票		無効票	2 票
	無効票	1 票			
	合計	32 票		合計	32 票

新たに議長になった金井直樹議員(3 期目)は、私の会派(自民党市民クラブ)に所属しており、これまで予算特別委員長や建設常任委員長を歴任。

また、副議長になった岡野英美議員(2 期目)は、公明党越谷市議団に所属しており、これまで決算特別委員長や予算特別副委員長を歴任。

## 6 月議会の主な動き

### (委員会)

議会運営委員会	委員長 伊藤 治	副委員長 高橋幸一 議員
総務常任委員会	委員長 橋詰昌児 議員	副委員長 菊地貴光 議員
民生常任委員会	委員長 白川秀嗣 議員	副委員長 橋本哲寿 議員
建設常任委員会	委員長 藤森正信 議員	副委員長 竹内栄治 議員
教育・環境経済常任委員会	委員長 武藤 智 議員	副委員長 島田玲子 議員

### (会派)

5 月 20 日付で会派の解散及び結成届がありました。

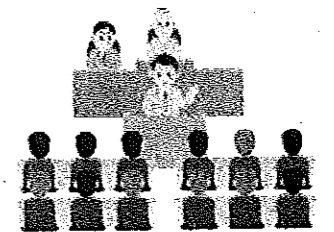
#### 解散

民主党・ネット・無所属の会 8 名

#### 結成

民主党・市民ネットワーク 4 名

清流越谷 4 名



※その他、6 月定例会では東埼玉資源環境組合議会議員や越谷・松伏水道企業団議会議員、民生委員推薦会委員、都市計画審議会委員などの変更等がありました。

## 下水道使用料の

### 賦課漏れが発覚

越谷市では、平成二十三年一月に報道された、他市のスーパー銭湯の不正配管による下水道使用料の過少申告事件を契機に、集合住宅における排水設備の調査を実施したところ、下水道を使用する際に必要となる手続きが行われないまま無断で下水道に接続されたことに起因して、下水道使用料を賦課していない事例が見つかりました。

### 総額約四千六百万円

無断接続に起因するものは三九二件、事務処理に起因するものは五六件、合計で四四八件の賦課漏れが確認され、総額にすると四六、〇五四、六八七円の下水道使用料が徴収されていないことを確認しました。この内、一二、〇九七、八八二円は地方自治法による時効(五年)を迎えておりますが、市では現在、残る三三、九五六、八

〇五円について納付の手続きを進めています。

### 市長・副市長の報酬を

#### 減額する議案を可決

六月定例会の最終日(六月十九日)、市長から前述した公共下水道使用料の賦課漏れの管理責任として、市長・副市長の報酬を一ヶ月分減額する議案が提出されました。

その内容は、市長給料月額二十%カット(九十九万五千円↓七十九万六千円)、副市長給料月額十%カット(八十三万五千円↓七十九万九千七百五十円)、十二万五千二百五十円減額。

議員からは、何故、今になって提案するのか、或いは減額の根拠など様々な質疑がありましたが採決の結果、全会一致で議案は可決されました。

### 職員の処分等に対し

#### 議員からも不満の声

六月十九日の議会閉会后、下

水道使用料賦課漏れに関する職員の処分等について、各議員に執行部から説明がありました。

その内容は、建設部長をはじめとする五人の職員に対し、減給や戒告といった懲戒処分、或いは訓告処分です。

とりわけ、建設部長に関して、この四月に部長に昇任したばかりで、六月議会は初めて執行部席に座った、いわゆるデビュー戦ともいわれる職員で、最初の大仕事が減給十分の一の懲戒処分と考えると、組織上の責任問題とは言え、察するに余りある感は否めません。

私的になりますが、現在の建設部長は、これまで出逢ったどの職員よりも現場の対応が早く、的確な判断で行動をしてきた優秀な職員であるため、多くの議員から不満の声が上がりましたが、「組織である以上決定に従います」と潔い覚悟を示している建設部長の発言に、議員からそれ以上の不満はありませんでした。

建設部長には、今後とも三十

立政権と緊密に連携する」などと公約に掲げていたが、その民主党も「普天間基地を国外・最低でも県外に移す」という発言をはじめ「子ども手当を月額二万六千円支給」、「八ッ場ダムの建設中止」、「高速道路の無料化」、「ガソリン税の廃止」など公約違反を挙げれば枚挙にいとまがない。

具体的にこの四年間でどの様なことを連携してきたのか。



「安心度埼玉No.1の

越谷について」

二項目九点に上る具体的な公約と実行期限があるが、その

### 市長公約違反を認める

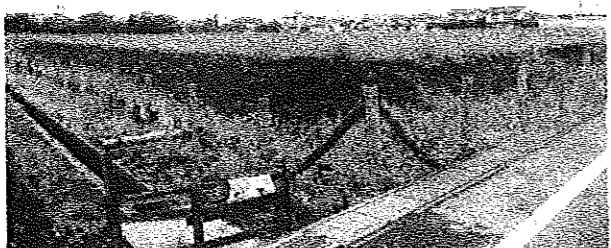
鳩山政権との連携については、市長は答弁の中で具体的なものを挙げることは出来ませんでした。また、安心度埼玉No.1の越谷については、学童保育室の待機児童数ゼロについて「努力しているにも係わらず需要が拡大しており、ゼロにすると言ったが出来なかったことは率直に認めざるを得ない事実」と前回の市長選挙における公約違反を認めました。

### (仮称)第四老人福祉

#### センターについて

川柳地区に建設中の第四老

人福祉センターに関して、争点は、何故、他の三館と比べると二年も開設が遅くなるのかである。敷地面積で言えば、「くすのき荘」や「ゆりのき荘」よりも小さいし、建設工事の期間で言えば、「くすのき荘」や「ゆりのき荘」が約十六ヶ月かかっているのに対し、第四老人福祉センターは約十四ヶ月と伺っている。



また、現在、第四老人福祉センターは、今年の三月十五日に造成工事が終了しているが、既存の「けやき荘」は、造成工事が終了から建設工事着工まで約

三万越谷市民の福祉向上に向けた市民サービスの提供に強く期待したいと思えます。

### 市長公約の実現を

#### 一般質問で問う



「鳩山政権との連携について」

六月六日に行われた越谷市議会本会議において、市長に対し三項目にわたり一般質問をしました。

その内容は次の通りです。

前回の市長選挙において、高橋市長は「鳩山政権と連携する」或いは「民主党を中心とした連

五ヶ月間、「くすのき荘」は、造成工事が終了から建設工事着工まで約七ヶ月間かかっている。これらを勘案すると既に造成工事が終了している第四老人福祉センターは、どんなに遅くても平成二十七年の四月に開設が間に合うのではないかと。市長の答弁では、この間の財政運営を勘案すると、なかなか難しい。二年間遅れたことは財政事情である。

造成して二年間かかるとのご指摘だが、建設工事に関しては、大きな財源が必要となってくる。開設は平成二十八年の一月から三月頃と考えている。

### その他の質問

「中核市移行について」

中核市移行の最大の理由は、保健所を設置できることにあるが、保健所を新たに設置するには保健所政令市などの方法もある。県内唯一の中核市である川越市は、中核市移行に伴い財政的に厳しい状況を作り出したと考えられるが、今後の越谷市についての見解を問う。